

令和8年2月25日

東京たま広域資源循環組合

今年で10回目！ 無事にヒナが孵りますように
～谷戸沢廃棄物広域処分場内でフクロウが抱卵を開始～

東京たま広域資源循環組合（管理者：多摩市長 阿部裕行）が管理する谷戸沢廃棄物広域処分場内（東京都日の出町）で、平成28年から10回目となる「フクロウ」の抱卵を2月24日に確認しました。

当組合では、既に埋立てが終了した処分場内の自然環境が豊かになるよう、動植物及び希少生物の保全・生育に取り組んでいます。その取組の一環として、フクロウ用の大型巣箱を場内の樹林に2か所設置していますが、そのうちの1か所の巣箱でフクロウが抱卵を始めましたのでお知らせします。現在、フクロウは卵を温めています。4月上旬頃には、ヒナの姿を見ることができると思われます。今後は、ヒナの巣立ちまで、フクロウの子育て状況を温かく見守っていきます。



巣箱で抱卵するフクロウの様子
（2月25日）

今後は、ヒナの巣立ちまで、循環組合のホームページに写真等を掲載していきます。
（ただし、アライグマなどに襲われ、営巣を放棄する可能性もあります。）

谷戸沢処分場はこれまでの自然再生の取組が評価され、令和7年9月に内陸の管理型最終処分場として初めて「自然共生サイト」に認定されました。

フクロウなどの猛禽類は、処分場内及びその周辺地域の生態系の豊かさを示す指標となります。これからも、当組合では動植物のモニタリング調査を継続的に行い、豊かな自然環境の創出に努めてまいります。

循環組合ホームページ：<https://www.tama-junkankumiai.com/>





【 2/24 巣箱で確認された卵 】



【 2/25 巣箱に入る母フクロウ】